

アグアスだより

2013年9-1月号

母の励まし・教師の励まし

6月号に「母親の励まし」について書き、その後、「聞く力」(阿川佐知子著)を読みました。No.1のベストセラーだけあって、近年にない好著でした。阿川さんの1000回ちかいインタビューと、30回以上のお見合いの経験から掘んだコミュニケーション術とのこと。そのなかに、母親の励まし、教師の励ましがありました。すばらしい話だと思いました。すでにお読みになられた方もいらっしゃるかも知れませんが、ここに掲載させていただきます。

そして、次号に「励まし」シリーズとして、私自身の体験を加えさせていただきます。ただし、以前の原稿なので、話題が古い点をご容赦下さい。

母親の励まし

レスリングの浜口京子選手にお会いしたのは、彼女がアテネ五輪に出場した直後。準決勝のときに電光掲示板にポイントが正しく表示されず、浜口選手が延長戦だと思っているうちに負けの判定が下される、というアクシデントがあったあとでした。結局、その五輪では、三位決定戦に勝利し、銅メダルを獲得できたのですが、そのインタビューではなんといっても、あの不可解な判定に焦点が絞られます。あの瞬間、浜口選手はどう思ったのか。悲しかったのか、悔しかったのか、涙は出なかったのか、ヤケを起こしたくならなかったのか。なによ

り、どうやって、その後の三位決定戦までに、気持ちを切り替えることができたのか。「私という性格の女がもし、あんなことをされたら、悔しくて腹立たしくて、きっとそばにいるコーチとかトレーナーとかに八つ当たりをするだろう。同じ日に三位決定戦なんか出たくないと思えるかもしれない。だって、気力も体力も完全に失っているもの」。そう思いました。実際、浜口選手もあの瞬間、何が起こったのか理解できないほど呆然として、とりあえず審判に抗議を試みたものの、取り合ってもらえず退却する。その後、選手村に戻り、6時間後の三位決定戦までに気持ちの切り替えをしなければいけないと頭のどこかで気にしながらも、「なんでこんなことになったんだろう」という思いから抜けられない。そこで、浜口選手は携帯で家族に電話をします。

「母が電話に出て『京子は世界(世界選手権)でゴールドをとった女なんだぞ。堂々と戦いなさい!』と言われた瞬間、『あ、そうだ。こんなところで落ち込んでいる場合じゃない』と目が覚めました」

さらにお母さんは、「私は今まで勝って言ったことはないでしょ? でも、今回は勝ちなさい。銅メダルを取りなさい」と。そして同時に「お前はよくやった」と娘を評価する。その一言で、それまでただ呆然とするだけで泣くこともできなかった浜口選手がはじめて涙を流し、試合場に戻ったときは、「あ、また試合ができるんだ!嬉し

い！と笑顔になるくらい、元気が出てきました」。

はああと、私はじわじわ流れてくる涙をぬぐいつつ、ひたすら嘆息してしまいました。(中略)

もし私が母親の立場にいたとして、自分の子どもが京子ちゃんのように、どうしていいのかわからなくなっているときに、いったいどんな言葉をかけるだろうか。(中略) ああ、とても私には、最適な言葉を選ぶことはできないだろうなあ……。そう思うと、京子ちゃんのお母さんが選んだ言葉が、どうして「それ」だったのか。そして、その母親の言葉が、どうして京子ちゃんの胸をピンポイントで射止めたのか。まるで宝くじのように当たる確率の低い難問に思われて、「お母ちゃん、お見事！」と拍手を送りたい気持ちになりました。

でもきっと、それは互いに互いのことを熟知して、深くて大きな愛情が通じ合っているからこそ、なせる業だったのだと思います。

教師の励まし

ヤンキー先生で知られる義家弘介さんは、不良時代からようやく立ち直り、これからまじめに社会で生きていこうと勉強に励んでいた矢先、オートバイ事故に遭う。生死の境をさまよいながら、「ああ、俺はやっぱダメなんだ」と自暴自棄になりかけていたヤンキー先生のもとへ、高校時代の恩師、安達俊子先生がお見舞いに来て、朦朧としたヤンキー先生に語りかける。「死なないで。あなたは私の夢なんだから」。

その一言で、ヤンキー先生は、生きる意欲を取り戻すのです。決して計算して出て

くる言葉ではないでしょう。でも、その瞬間、恩師の安達先生が、どうしてそういう言葉を選んだのか。そして、それを耳にしたヤンキー先生の心に、どういう作用をもたらしたのか。奇跡のような言葉の威力に圧倒されて、二人が向き合っている病院の一室の光景がまざまざと浮かんで来て、私はたしか、オンオン声を出して泣いた覚えがあります。

9月行事予定

- 2日(月) 全校朝会、カレー、読み聞かせ
- 5日(木) 職場体験学習(中学部)
- 9日(月) 全校朝会、メキシコタイム一斉授業(独立記念日)
- 13日(金) 創立記念式
- 16日(月) 独立記念日(祝日)
- 17日(火) 中学部2学期中間テスト
- 23日(月) 全校朝会、豚井の日
- 30日(月) 全校朝会、全児童生徒一斉下校
(16:00)

怒濤のバスケットボール

休み時間、体育館でバスケットボールが流行っています。バスケットといっても、ダブルドリブルあり、タックルあり、ケリあり、のラグビーに近いボール運動です。それでもだんだんチームワークがとれてきて、本校独自のスポーツとして進化を遂げています。6年生が中心になってプレーしていましたが、最近では中学部までバスケットボールをやり出しました。ただし、バスケットコートがひとつしかないのです。そのなかで2つのゲームが展開されています。「やりにくくないの？」と聞くと、「べつに」の答え。スゴイ！のひとことです。